

## 二宮町町民活動推進委員会 第4回委員会議事録

日 時：平成19年8月23日（木）19：00～20：40

場 所：二宮町役場2階・第1会議室

出席者：山内和夫委員長、高橋武士副委員長、奥慶子委員、向後孝明委員、神保智子委員、  
瀬戸宏委員、蜂須賀光子委員、高橋克美委員

欠席者：稲葉茂徳委員、関野勝治委員、高山琢磨委員、

事務局：安部課長、二見係長、後藤主事

傍聴者：なし

配布資料（当日配布）

- ・会議次第
- ・資料1・・・・平成19年度協働まちづくり補助金制度について  
「アンケート結果」のまとめ
- ・資料2・・・・町民活動サポートセンターの運営状況

### 1. 開会（安部課長より）

### 2. 委員長あいさつ

- ・暑い日が続いておりますが、集中力をもって乗り切りたいと思います。宜しくお願いします。

### 3. 議題

- ◆資料1に入る前に議事録署名人について。今回は山内委員長、高橋副委員長です。

#### (1) 平成19年度協働まちづくり補助金制度の改善点及び次年度の方向性について

- ◆事務局より説明。（二見係長）

アンケート結果を読み上げる。

（事務局）補足説明、ご質問等頂ければと思います。それでは委員長お願いします。

（委員長）審議していくということで、私の提案ですが、今日はこれについて結論を出そうというのではなく、指摘頂いた方に説明を頂き、意見の交換をしていこうと思います。

- (委員) 大体各団体とも、活動が始まるのが5月頃が多いかと思います。具体的な活動が煮つめられていないので、予算面で確定しにくい。そういった面でもう少し時間を空けた方が良くと思います。
- (委員長) どちらの方に長く期間をおくということですか？
- (委員) 後ろに長くです。
- (委員長) そうすると補助金決定が遅くなり、交付も遅くなりますよね。団体の方々はそれでも構わないのでしょうか？例えば今頃の8月や9月の交付でも…
- (委員) さすがにそんなに長くの期間は空けられません。
- (委員長) それもそれぞれの感覚の問題ですよ。今回の募集期間は4月12日(木)～5月18日(金)でしたが、では、一週間だけ後ろに伸ばそう、という事でもないでしょうし、少々難しいですね。
- (委員) 7月位に結果がでる形にならないだろうか？
- (事務局) 19年度の申請の現状を報告致します。4月に申請頂いた団体が一つだけで、ゴールデンウィーク明け、つまり募集期間終了間近で残りの団体さんが申請されました。また、申請を頂いてからプレゼンが始まるまでに約一ヶ月。その一ヶ月の間に団体さんはプレゼンに臨む準備を始める訳です。実際に補助金額が決定して、交付をする期間が7月末でした。たとえ期間を延ばしたとしても結局、交付も遅れるだけであり、やはり5月の中旬辺りが期限であって良かった、というのが19年度の実情でありました。
- (委員長) なるほど。事務局の考えは考えで実際には私たちでどうするか決める訳ですから。こういった意見も踏まえて次回結論を出す時に、今年度のようなやり方で良いのか、或いは余裕を持たせた方が良いのか、次回かその次の会議で結論をだしていきましょう。
- (事務局) 18年度の際は今回より1ヶ月程遅れての交付でありましたが、もう少し早い方が良いだろうという反省点で、19年度はこのような時期になったことをご承知願いたいと思います。
- (委員長) そうですね。何か意見がなければ次にいきます。
- (委員) 今は高校でもボランティア活動が学校の評価になると言われており、また高齢化が進んでいるので、若い人にも活動が広まっていかないと…という思いです。学校へのPRもしていきたい。
- (委員) この募集というのは町がするんですよね。そういうのは問題が無いのですか？中学校以下は二宮町の管轄。県立高校の場合は県の管轄。そのような所に連携をとるとするのは運営上どういうことなのか。
- (事務局) 高校生との関係でいきますと、ボランティア活動をする単位として認められてくるような形になっております。その中で「サポートセンター」というのは高校生ボランティア活動のエアポートのような位置づけでもある訳です。そして、

高校生には一人ひとりパスポートというものを持っております。それを使いながら、町としても高校生のボランティア活動を推進していきましょう、というのがあります。また、補助金云々というよりもむしろ、今ある町民活動団体と色々とタイアップをし、高校生の力を活かしていく、という部分もあろうかと思えます。

- (委員) 個人的に高齢者宅へ赴き、介助をしている高校生グループもいますので、それだったらちゃんとした組織に立ち上げようと思っている生徒さんもいるのでは？と思ったので、「場の提供」という意味合いで、意見をあげました。
- (委員) 組織を立ち上げ補助金という話になると、高校生はまだ未成年ということですが、責任者というのは誰になるのでしょうか。補助金の申請で高校生があがってくるのは如何なものかと思えます。勿論、中学生や高校生にボランティア活動をしてほしいという考えは分かりますが、お金が絡むと少々疑問に感じます。
- (委員長) 受け皿として、例えばこの委員さんが責任者となり、子どもたちに活動をしてもらうのは結構なことではと思いますが、高校生自体が主体となって補助金を申請・交付することが可能なかどうか、ですね。事務局の方でも今後の課題として、このような意見があがってきたというのを承知しておいて下さい。続いて「補助金対象経費」、お願いします。
- (委員) 今回も補助金の対象経費というのが明確にある訳ですが、なかには補助金の対象から外れているのでは？という団体があります。しかし結果的にはそれを認め、補助金も交付しました。ということは今後も同じような経費で申請されても認めなければいけない、という意見です。とりわけ重要なのは設備費です。
- (委員) やはり1回認めたものは今後も認めていかなければならないでしょう。
- (委員長) わかりました。それでは続いて説明をお願いします。
- (委員) 今年2年目になりますが、申請したのと実績がだいぶ違っていたので、そういうものが無い方向に持っていきたい。
- (委員長) それでは「応募方法」について次の方をお願いします。
- (委員) 申請書類等、更に詳しく明示してほしい。またプレゼンでも少々説得力に欠けている箇所も見受けられるので。
- (委員) プレゼンで聞く前、申請の時に「今まで補助を受ける前には会員が負担をしていた」とか「賛同者の寄付を受けていた」というのを前もって知っておくと申請額を検討するうえでやり易いと感じました。
- (委員) 前回の会議でも話しましたが、申請書にしる決算報告書にしる、もっと細かく作成し、数字を入れるだけで完成するような様式にした方が良いでしょう。
- (委員) 始めから項目が細かく分かれていて、予算と決算がわかり易くなっていれば、途中で事業が変更になっても、ここは整合性が無いのでは？ということが明確に見えてくるのではないのでしょうか。

(事務局) 申請書に収支予算書などを記入例で作ってありますが、ここの部分の中で「支出科目」を予めこちらで入力しておき、団体独自の項目も入れられるような形にしておけば良い。尚且つ、予算と決算があるのだと初めからフォーマットを作っておき、それに見合うような形で、「予算のところを示した内容に即した形で支出をするんですよ」というふうに誘導(アドバイス)するという事ですね。

(委員長) 続きまして、ビジュアルな書類とはどういう事でしょうか。

(委員) 活動しているのが充分に見えてこない団体がいくつかあるので、例えば実績の中でも活動した写真を添付してあると、短いプレゼンの時間でも中身が見えやすくなる。

(委員長) 審査選考・基準について、稲葉さんより伺いたいのですが、次回の会議で説明頂きましょう。次の方をお願いします。

(委員) 審査基準の8項目の削除・変更・追加等があったら皆さんの意見を聞きたい。

(委員) この団体の活動の方向性は良いのだが、この費目についてはちょっと…というすり合わせが審査をしていて難しいと思いました。

(委員長) 次の方をお願いします。

(委員) 全て型にはめて基準を決めるよりも、全体の出来上がった活動について審査をするという部分はある程度、各委員の裁量で点を付けても良いのではないかな？

◆事務局より説明。(二見係長)

アンケート結果(別紙)後半を読み上げる。

(委員長) それでは後半の部分、「プレゼンについて」説明をお願いします。

(委員) 5分という非常に短い時間内でプレゼンテーションするには、予め手順書(事業目的→問題点→解決策など)を使えば短い時間を有効活用できるのではないかな。

(委員) 今までと同じようなやり方でいくのなら、もう少し発表の時間を延ばして貰わないと、団体の方も100%説明し切れないのではないかな。

(委員) まだ団体の方々も不慣れなのか、質問していることに答えてくれない人が多い。

(委員) 予め訊く内容を教えておけばもっとスムーズにいきそうですね。

(委員長) 皆さん参考意見として、どのようにしたら良いか次回の会議までに考えておいてほしいと思います。続いて「審査発表について」どうぞ。

(委員) どの世界でも「審査」には責任が伴い、名前を発表すべきである。

(委員長) 今年度はプレゼン前の会議で名前を発表しない方が良いと決まったが、訂正するのであれば、また皆さんと話し合ってください。それでは最後の「その他全般的にみて」についてをお願いします。

- (委員) 私は団体に属していないので、プレゼン結果の様々な声が全くわからない。団体に入っていれば、批判や要望の声があがってきて、来年の参考になるのだらうと思いました。
- (委員長) それでは次の方の「今後の方向性」について説明をお願いします。
- (委員) 支部が補助金全てを使っているのか、本部に上納金として納めているのかが分からないし、会計を明確にする意味で、二宮町に本部を置く団体に限定した方が良いと思います。
- (委員長) 大体以上が提案された中での説明でした。今回出てきたこのような意見・提案を具体的に決定していくのはいつ頃にしましょうか？
- (事務局) 次回の会議である程度骨格を作り上げないと、スケジュール的に予算決めまでに間に合わなくなってしまいます。
- (委員長) では、次回の第5回会議で決めますので、みなさん意見を固めておいてください。そして、欠席の委員さん三名には本日決定した事項について連絡しておいてください。
- それでは最後の検討事項、サポートセンターの運営状況についてです。

## (2) 町民活動推進委員会の今後の検討事項について

- (事務局) オープン以来の利用状況をお知らせします。延べ3,664人という集計ができております。町民活動団体の登録数については42団体となっております。協働まちづくり補助金を受けているのですが、ここに登録されていない団体もあります。活動の紹介等といったことで、こちらから登録を勧めている団体もございます。

それから、利用者のアンケート関係の中で、「交流コーナーの前日予約期間を延長してほしい」、「印刷用紙の販売をしてほしい」。販売については実現しております。次の「紙折り機を設置してほしい」につきましては、隣のITふれあい館に置いてあるので、そちらを利用いただくようお願いしたいということで予算が切られてしまいました。「裁断機を設置してほしい」、簡易のものを用意しております。「印刷機にソーター機能をつけてほしい」に関しましては、リース代金が上がってしまいますので、皆様には手差しで印刷をお願いしているところでございます。

- (委員長) これは報告ですよね。何か審議することがありますか？
- (事務局) 特にサポートセンターのこれからの運営ですが、町民活動推進委員会の中でセンターのあり方であったり、町民活動団体に対しての事業啓発、そういうものが必要なかどうかをご意見頂ければと思います。
- (委員) センターの扉に取っ手をつけないと危険です。それと、町民活動の中で物販をしている団体の販売所としてはどうだろうか。スペース的に限界はあるが、新

しい利用方法として如何でしょう。

(委員) 確かに印刷機の利用者は多くなっていますが、駐車場も無いし、まだまだ利用者が少なくて閑散としている為、団体のポスター等貼ってもPRにならない。まだラディアンの方が宣伝効果はあります。

(委員長) いろいろな意見もあるようですが、時間も無くなってきましたので、最後の「その他」。なにかございますか？

(事務局) 今まで行政側から様々なテーマを出しておりましたが、逆に委員会の方から町に提案をしたい等、委員会の中で自分たちのテーマを検討して行政に提言していこう、というのがあれば、今後の検討課題でお願いします。また次回の会議で話し合いませんか。

(委員長) そうですね。みなさん、いろんなアイデアを出して頂きたいと思います。

◆次回会議（第5回会議は11月21日（水）に開催予定）

閉会（山内委員長より）

◆20：40に閉会した。

議事録署名人

---

議事録署名人

---